

第36回
JSCRS 学術総会
ランチョンセミナー

11

日時 2021年6月26日(土) 12:25~13:35

会場 第5会場 ホールB5(2) 東京国際フォーラム

オンデマンド
配信期間 2021年7月28日(水)~8月27日(金)

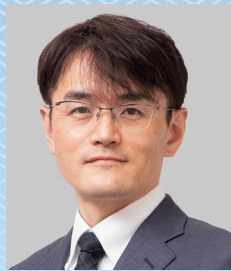
※視聴方法は本総会のホームページ内お知らせをご参照ください。

これでわかる! 白内障手術の現在と 新しい潮流

座長

佐藤裕也眼科医院 副院長

佐藤 裕之 先生



白内障手術治療の進歩と共に、様々な種類の眼内レンズ(IOL)が開発されている。

単焦点IOLは多焦点IOLに比し、様々な背景をもつ患者に挿入可能であることから現在でも本邦では最も使用頻度が高いIOLであり、現在も新しい知見がでてきている。今回は白内障手術の現在と新しい潮流をテーマとして先生方にご講演を頂く。

まず昨今の白内障手術の課題として、眼内レンズ挿入数の伸長に伴い、術後しばらくたってからのIOL脱臼や眼内落下例の増加が報告されている。これらを未然に防止するため、チン小帯へ負荷をかけない灌流ハイドロダイセクション法に取り組まれている増田 洋一郎先生にご講演をお願いした。

次に、白内障手術は屈折矯正手術へ様変わりし、より精緻なIOL度数計算が求められる。人口知能(AI)を用いた新世代の度数計算式が日本国内でも導入され始め、計算式選択の幅も広がりがつつある。国内で多用されているIOL度数計算式の屈折誤差に関する知見を玉置 明野先生よりご講演いただく。

最後に私からは、小切開シングルピースIOL使用の白内障手術に押され使用頻度が減少傾向にある3ピース眼内レンズをもう一度見直そう、ということを実験例を交えて述べさせていただきます。

本セミナーの知見が臨床現場の一助となれば幸いです。

講演
1

白内障手術の
低侵襲化をめざして

東京慈恵会医科大学
眼科学講座 講師

増田 洋一郎 先生



講演
2

IOL 度数計算式と
予測屈折誤差の関係

独立行政法人地域医療機能推進機構
中京病院 眼科 主任視能訓練士

玉置 明野 先生



講演
3

古き良きを知る：
再考！3ピースIOL

佐藤裕也眼科医院 副院長

佐藤 裕之 先生



これでわかる! 白内障手術の現在と新しい潮流

講演 1

白内障手術の低侵襲化をめざして

東京慈恵会医科大学
眼科学講座 講師

増田 洋一郎 先生



略歴：

1997年 東京慈恵会医科大学 医学部卒業
2006年 米国スタンフォード大学 客員研究員
2012年 東京慈恵会医科大学 眼科学講座講師
2014年 東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター 眼科診療医長
2019年 東京慈恵会医科大学附属病院 眼科診療医長

白内障手術は、近年飛躍的な進歩により低侵襲化が進んでいる。そのため手術の裾野が広がり、通常例であればほぼ問題なく遂行することが可能である。一方Zinn小帯脆弱症例、急性緑内障発作症例などの難症例に直面する機会も多くなり、これらの症例に対する低侵襲手術にはまだ課題が残されている。

本講演では、演者が日頃心がけている白内障手術での工夫を紹介する。また、アバンシプリロード1P(YP2.2R)の使用経験についても触れたい。本講演が先生方の日頃の白内障手術の一助になれば幸いである。

講演 2

IOL度数計算式と予測屈折誤差の関係

独立行政法人地域医療機能推進機構
中京病院 眼科 主任視能訓練士

玉置 明野 先生



略歴：

1987年 社会保険中京病院
2005～2019年 川崎医療福祉大学 非常勤講師兼任
2007年 愛知淑徳大学 非常勤講師兼任
2014年 独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院
2020年 信州大学大学院総合工学系研究科博士課程修了 学位取得
現在に至る

近年、様々な付加価値眼内レンズ(IOL)が開発され、水晶体再建術におけるIOL選択の幅が広がり、患者の期待度も高くなってきています。また、光学式生体計測装置の進歩により、IOL度数計算のためのパラメータは、SRK/T式に代表される眼軸長と角膜屈折力のための2-variableから、前房深度を含む3-variableのHaigis式、水晶体厚、角膜径を加えた5-variableのBarrett Universal II式、AIを用いたHill-RBF、EVO式やKane式等、“第X世代”といったくりを超えて使用されるようになってきました。臨床において患者の希望に沿った術後屈折値を得るには、予測屈折誤差の低減が不可欠であり、従来の計算式においては、各施設での定数の最適化が求められます。いかなるIOL選択においても、単焦点レンズの予測屈折誤差を知っておくことは、通常使用のみならずバックアップレンズとしての術者の安心感にも繋がります。

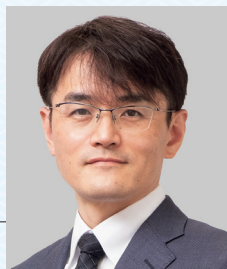
長年実績のあるAvansee™での予測屈折誤差の関係について、様々な角度から得られた知見をお見せします。

講演 3

古き良きを知る：再考！3ピースIOL

佐藤裕也眼科医院 副院長

佐藤 裕之 先生



略歴：

1998年 北里大学 医学部 卒業
虎の門病院 眼科
2005年 社会保険中京病院 眼科
2010年 飯田市立病院 眼科 副部長
2011年 飯田市立病院 眼科 部長
2017年 佐藤裕也眼科医院 副院長

近年、白内障手術の小切開化に伴い小さく折りたためる眼内レンズが各社より上市されている。そのほとんどがシングルピースIOLであり、小切開白内障手術における3ピース眼内レンズの使用頻度は減少の一途である。KOWAのアバンシにおいて、シングルピースIOLは強角膜切開幅が2.2mm以上あればよいのに対して3ピースIOLは2.4mm以上と0.2mm大きい切開幅が必要であり切開幅のアドバンテージはシングルピースのほうに分がある。

しかし、破囊やチン氏帯断裂といったトラブル発生時にはシングルピースIOLでは対応困難なことが多く、こういった事態が発生した際には3ピースIOLに頼らざるを得ないこともまた事実である。今回は3ピース眼内レンズに再び焦点を当てて白内障手術時・手術後の合併症対策における3ピースIOLの良い点について話をしていきたいと思う。「古くて新しい」3ピースIOLをもう一度見直す機会になれば幸いである。